

# ～教員おすすりめ本～

No. 12



経済学部 経済学科

山根 承子

## 『風の影』 上・下巻

カルロス・ルイス・サフォン 著  
木村裕美 訳

### 【先生からのコメント】

本好きの心をくすぐりまくる、一冊の本を巡るミステリー小説です。

この物語は、バルセロナに住むダニエルという少年が父に連れられて「忘れられた本の墓場」に行き、そこで見つけた「風の影」という本を夢中になって読むところから始まります。「風の影」の作者・カラックスの著作は、なぜかこの本屋にもありません。そして謎の男につけ狙われ、「風の影」を手放すように言われるダニエル。その男は「風の影」を燃やしているという…？

張り巡らされた伏線と緊張の展開、そして何よりも熱い友情に痺れます。私は仕事を放置して夢中で読みました。「忘れられた本の墓場」は巨大な回廊を持つ迷路のような書庫なのですが、どうしても行ってみたい。



## 『煙滅』

ジョルジュ・ペレック 著  
塩塚秀一郎 訳

### 【先生からのコメント】

第二外国語がフランス語の方！ フランス語で「e」がどれだけ頻出する文字か、すぐにわかりますよね。この「煙滅」の原著「La Disparition」はフランス語の小説なのですが、なんとそのeを一度も使わずに書かれています。もちろんストーリーもきちんとあり、失われた文字を巡るミステリー。恐ろしい取り組みです。

しかし、これは翻訳してしまったら意味がなくなってしまう……が、なんとイ段（いきしちにひみり）を一度も使わずに翻訳してしまっただのがこの「煙滅」。本当か？ そんなことができるのか？ うっかりどこかに残っているのでは？ ちょっと手に取って確認してみてください。こういうアイデアが気に入った人は、筒井康隆の「残像に口紅を」もおすすりめです。

2017年6月9日

近畿大学中央図書館